

平成25年度 自己評価計画

石川県立野々市明倫高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1. 研修・研究を通して教員の授業力の向上に努め、生徒の学力の向上を図るとともに、朝学習の充実により、学びに向かう積極性を養い、一人ひとりの可能性を引き出しながら、それぞれの進路目標の実現に向けて主体的に取り組む力を育成する。	① 授業を個々の生徒の実態に即して効果的に実施し、さらに習得した知識を活用できるように思考力・判断力・表現力を高める。	教務課 各教科	基礎・基本事項はある程度理解しているが、生徒が自ら考え判断し、表現しようとする場面が少ない。	【努力指標】(教員) 思考力、判断力、表現力を育てる取組を授業に取り入れている。	思考力、判断力、表現力を育てる取組を授業に A 十分に取り入れることができた B かなり取り入れることができた C ある程度取り入れることができた D あまり取り入れることができなかった	A+Bが80%未満の場合は、教科で改善策を検討	7月、12月に実施
				【成果指標】 指導方法や、課題の与え方により、生徒の学習意欲が高まり、成績の上昇がみられる。	1, 2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1年9月,12月,2月 2年9月,12月,2月に実施
	② 研修・研究などを通して、授業評価で検証しながら、授業力の向上に努める。	教務課 各教科	昨年度の授業評価における生徒の授業に対する満足度は82.2%である。さらに、各教員が生徒の実態を把握し、生徒が主体的に学ぶ授業づくりに努める必要がある。	【満足度指標】(生徒) わかりやすい授業により学習意欲が高まり、主体的に授業に参加することができる。	生徒による授業評価で、授業が理解できると感じる生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	教科別の評価でCまたはDの場合は、その教科で改善策を検討	7月、12月に実施
				【努力指標】(教員) すべての教員が研修・研究に取り組み、授業力を向上させる。	授業力の向上のために、研修・研究に A 積極的に取り組むことができた B 概ね取り組むことができた C ある程度取り組むことができた D あまり取り組むことができなかった	A+Bが80%未満の場合は、教科で改善策を検討	7月、12月に実施
③ 基礎基本の定着を図ることにより、学習意欲を高め、課題の工夫などにより学習時間の増加を図る。	教務課 各学年 各教科	1・2年生の平日で100分以上の家庭学習時間を確保している生徒が64%であり、基礎学力を定着させるためには学習時間の増加が必要である。	【成果指標】(生徒) 十分な家庭学習時間が確保され、継続的な学習が定着している。	1・2年生で平日の平均家庭学習時間が、120分以上である生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月に実施	
④ 朝学習の充実により、学びに向かう積極性を身につける。	進路指導課 教務課 各学年	昨年度までは朝自習の形態で実施していたが、生徒の集中力の面で欠けていたので本年度より朝学習としての10分間を設定した。	【満足度指標】(生徒) 朝学習に積極的に参加している。	朝学習に対して、積極的に取り組んだ生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月に実施	

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
	⑤ 時期に応じたきめ細かな面接指導により、生徒の進路意識を高め、早期に目標を設定させる。	進路指導課 各学年	進路ガイダンスや面接指導を充実させ、生徒の進路意識を高める。取組を時期に応じて適切に行う必要がある。	【努力指標】(教員) 面接指導が効果的に実施されている。	一人ひとりの生徒の可能性を引き出す面談を A 十分に実施することができた B 概ね実施することができた C ある程度実施することができた D あまり実施することができなかった	A+Bが80% 未満の場合は、改善策を検討	12月に実施
	⑥ 国公立大学への志望者数を増やし、合格者数を増加させる。	進路指導課 各教科 各学年	東京大学をはじめとする国公立大学の合格者数は61名で前年比50%増加、難関私大の合格者も前年比4倍で躍進した年であった。センター試験対策に取り組むとともに、個別学力指導を強化し、早期より記述力をアップさせる必要がある。	【努力指標】(教員) 個別学力試験に対応するため、効果的な補習や添削指導を実施する。	個別学力試験に向けた補習や添削指導を効果的に A 十分に実施することができた B 概ね実施することができた C ある程度実施することができた D あまり実施できなかった	A+Bが70% 未満の場合は、改善策を検討	3月上旬に実施
				【成果指標】 国公立大学の合格者数を増加させる。	国公立大学合格者数が A 65人以上 B 60人以上 C 50人以上 D 50人未満	Dの場合は、改善策を検討	3月下旬に実施
				【成果指標】 私大志望の生徒への指導を強化し、合格数を増加させる。	難関私大合格者数が A 25人以上 B 20人以上 C 15人以上 D 15人未満	Dの場合は、改善策を検討	3月下旬に実施
2 部活動や生徒会活動の活性化に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、地域に開かれた、明るく活力ある学校づくりを推進する。	⑦ 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	生徒会課 各部活動	12月の部の加入率は84.8%であり、前年の82.6%と比較すると増加傾向にある。さらに、生徒の意欲を喚起する必要がある。	【成果指標】(生徒) 部活動の加入率を高める。	1、2年生の12月の部の加入率が A 87%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は、改善策を検討	12月に実施
			昨年度、文化部・運動部ともに一昨年度より成績は向上しているがさらに活性化する必要がある。	【努力指標】(教員) 各部活動が各種大会や活動でのチャレンジする目標を設定する。	チャレンジする目標を達成できた部の割合が A 50%以上 B 45%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合は、指導方法の工夫をする	年2回調査
	⑧ 体育授業時に運動量を確保し、特に持久力の向上を図る。	保健体育科	5月から11月にかけて体力テストが向上した生徒は昨年度は59%であり、生活の中で運動時間の減少と体力の低下傾向がある。	【成果指標】(生徒) 体育の授業で毎時間体づくりの運動を実施する。	1、2年生の新体力テストで、1回目より向上した生徒の割合が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満 (シャトルラン)	Dの場合は、改善策を検討	5月、11月に実施

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
	⑨ 明倫祭の外部公開を継続し、模擬店数の増加など、イベントの企画について検討を行う。	生徒会課	昨年度1日目(模擬店等)の外部からの入場者数は450人であり、内容を充実させることにより来場者数の増加を図る。	【成果指標】内容を充実して、1日目の入場者数の増加を図る。	1日目の入場者数が A 600人以上 B 500人以上 C 450人以上 D 450人未満	Dの場合は、改善策を検討	9月に調査
	⑩ 「朝の挨拶運動」などのPTA活動に積極的に参加してもらい、生徒の育成をバックアップしてもらう。	総務課	保護者はPTA活動に79%満足しているが、「朝の挨拶運動」の参加率もやや減少しており、PTA総会の出席率も22%であった。	【成果指標】(保護者)保護者が学校行事等に参加した回数。	学校行事やPTA活動に保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下	A+Bが85%未満の場合は、改善策を検討	12月下旬実施
	⑪ 本の読み聞かせ、本の紹介カード展示など図書委員会活動を通して、地域との連携を図る。	図書課	昨年度、保育所での「本の読み聞かせ」や学校で作成したポップの地域図書館への貸し出しは好評であった。本年度も生徒の活動を積極的に地域に発信する。	【成果指標】(生徒)生徒が積極的に活動し、情報を発信する。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年5回以上 B 年4回 C 年3回 D 年3回未満	Dの場合は、改善策を検討	2月に実施
3 節度ある生活習慣の確立と安全意識の高揚に努め、自ら挨拶し、読書に親しみボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	⑫ 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒指導課 生徒会課 各学年	生徒の自己評価では「挨拶をすることができた」が74%であるが、積極的に大きな声であいさつのできる生徒は少ない。	【成果指標】(生徒)毎日、積極的に大きな声で挨拶をする。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりと A することができた B できなかった	Aが80%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月に実施
	⑬ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒指導課 各学年	自転車事故の件数が一昨年20件、昨年13件と減少しているが、ルールを遵守する意識を徹底していく必要がある。昨年度よく遵守していると答えた生徒は64%である。	【成果指標】(生徒)自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月に実施
	⑭ 環境にやさしい行動を意識して取り組める生徒の育成を図る。	保健環境課 各学年	いしかわ学校版環境ISO認定校として、ゴミの分別・節電・節水に取り組んでいるが、生徒の環境に対する意識はまだ十分ではない。	【成果指標】(生徒)学校や家庭で節電・節水に心がけている。	学校版環境ISO意識調査で節電・節水に心がけている生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月に実施

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	備考
-----	⑮ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 生徒指導課 各学年	生徒は落ちついた生活を送っているが、全職員が個々の生徒をしっかりと把握し、早期に対応する必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒を常に把握し、適切な対処をする。	生徒の変化に対して A 素早く対処し、解決に至った B 素早く察知し、対応することができた C 素早い対処ができず、解決が遅れた D 発見・対処が遅れた	A+Bが90%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月に実施
	⑯ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促す。	生徒会課 各学年	昨年度はA+Bは12%であり、部活動や生徒会執行部が企画し、積極的に参加している生徒も多いが、参加形態を見直す必要がある。	【成果指標】(生徒) ボランティア活動を野々市市とも連携し学校全体や部として参加する。	ボランティア活動に、 A 年5回以上参加した B 年3回以上参加した C 年2回以上参加した D 年2回未満であった	A+Bが50%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月に実施
	⑰ 各学年団と連携し、生徒に読書に親しむ習慣を身につけさせる。	図書課 各学年	本年度より、1年生の朝読書が実施されるが、主体的に読書に取り組めるように、一斉読書も継続させる。昨年度は7.0冊である。	【成果指標】(生徒) 生徒が読書に親しんでいる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 9.0冊以上 B 8.0冊以上 C 7.0冊以上 D 7.0冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	2月に実施